

# 緑のまきば

2020年№53

小金井緑町教会

小金井市緑町四・一六・三三

TEL 042・381・7961

牧師 山畑 謙

## 説教

### 2020年度の聖句

## 『勇気を出しなさい』

山畑 謙

「あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。」(ヨハネ16章33節)

歴史的な疫病による『苦難』の中、私たちは右の御言葉を2020年度聖句として掲げます。

この短い聖句で二度も出てくる「世」は、神様がその独り子をお与えになるほど愛され、救おうとされたもの(ヨハネ3章16節)でありながら、あなたがたを苦しめ悩ませるものでもあると言われています。なぜなら、世は内に邪悪性を抱え持ち、キリストにある光(正義と赦しと愛)に反応して、その牙をむいてくるからです。また自然災害や事故などの苦難の時にも、流言飛語(デマ)や、病める関係者へのバッシング、自己中心な振る舞いという形で、その邪悪性が現れてきます。

『苦難』には、人の悪に由来するものと、原因の分からない災害や事故によるものがあります。

前者の悪に由来する苦難の極みにあるのが「戦争」です。後者の災害には、先に記したような二重の苦しみが起こります。いずれの苦しみにしても、それらは最終的に「死」に行き着かせます。人はいつかは死ななければなりません。死への至り方の違いがあります。災害や事故による死は、思いがけなく、原因や理由もわからず、突然やってきます。同じ死に向かう苦しみでも、時間があるのとないのと、理由を考えられるのと、考えられないのとの違いによって、苦しみは変わります。

「死への至り方」について、私たちは与えられた知恵と力を結集して、可能な限りの対処をすることができると、しなければなりません。

「死そのもの」、これはどうにも対処しようがないものです。そんな私たちにとって、苦難の時に抱える「ある事」が、この「死」の八方塞がりの壁を打ち壊していきます。その「ある事」とは「理由が分からない」ということです。

私たちの人生は、いきなりやって来る苦難に打ちのめされ、「理由が分からない」ことに翻弄されます。その苦しみの中から、不思議にも教導に導かれてきたわけですが、その導きと言われるのも、やはりよく「理由が分からない」ものです。そして、十字架上で苦しみ死んで行く方が、なんで苦しむのか、やはり「理由が分からない」(教理的な説明は何度となく聞くのですが)。こ

うなってきましたと、まるで「理由が分からない」ごった煮状態に陥るのです。全てを放棄して、思考停止してしまいたくなります。そして、最後に死がやって来るのです。

信仰といっても、結局は死に行き着いて「おしまい」になり、その虚無を黙って受け入れるのが、悟りで

あり、救いなのででしょうか。さんざん悩んで考えた苦難の「理由」なんて、どうでもよくなってしまうのでしょうか。挫折した弟子たちも、苦難や試練を受けて途方に暮れる私たちも、言いようのない空虚感にポカんとしてしまうのです。

そんな者に、復活の主イエスが、改めて告げて下さいます。「勇気を出しなさい。私は既に世に勝っています。」主イエスの勝利は、復活にあります。死に対する勝利です。虚無という、生きる意味や尊厳や目的を、その理由を奪う死に対する勝利です。それは私たちに「もろもろの事柄の中に、ちゃんと理由はある。その根底にあるのは、お前への『愛』だ。」と宣言するかのようです。

十字架は、人を死に至らしめる罪を赦す『贖罪』という出来事であり、それによって全く罪赦され、復活の命を与えられ、救われる。これは理念や理屈ではありません。背後に死を隠しながら、苦難をもって迫る虚無に対して、全く無力で、悲しみ、くずおれるしかない者に、無条件に与えられる『愛』だ。それが、あなたには与えられてある。だから私はあなたに言われる。「さあ、勇気を出せ。」